

会 議 要 旨

会 議 名	令和7年度 第2回館山市コーラル会議
開 催 日	令和8年2月4日（水）午後1時25分～2時45分
開 催 場 所	館山市役所4号館 ボランティア集会室
出 席 者	[委員(敬称略 50音順)]合計9名（欠席1名） 石渡 秀嗣 小林 栄子 斉藤 聡大 佐野 聖一 庄司 友之 鈴木 麻里 出口 洋子 西村 勝利 吉田 育世 [市] 森市長、渡邊市民協働課長、完戸係長、當麻副主査
公開・非公開の別	公 開
傍 聴 人 数	0名（定員3名）
会 議 内 容 議事進行 西村会長 (事務局)	<p>1. 開会</p> <p>2. 市長挨拶</p> <p>3. 諮問</p> <p>4. 議事</p> <p>「館山市パートナーシップ・ファミリーシップ届出制度」の導入について</p> <p>【事務局より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「館山市パートナーシップ・ファミリーシップ届出制度」について説明。 ・制度の導入について検討を始めたので、委員の皆様から意見をいただきたい。 <p>【ご意見・ご質問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●都道府県単位で制度を導入しているところもあるが、千葉県は？ ⇒令和6年度県に確認した時点では「県として導入の動きはない」と回答あり。 ●窓口で堂々とオープンにできる人もいれば、極力誰にも知られない形でオンラインなど対面しない形を望む方もいるので、いろいろ選べるようになると良いと思う。 ●運用する側（担当職員等）が過度に緊張したり、言葉選びに慎重になりすぎたりする心理的障壁への配慮も必要となる。 ●望まないアウトティングをいかにして防ぐか。当事者が手続きをする際、窓口で周囲に知られないよう、オンライン申請や個室対応等、心理的負担を減らす工夫が必要。 ●提供できるサービス一覧を示すと過剰な期待や誤解を招かずにするのではないかと。 ●制度を開始してからも定期的に検証し、より良いものにしていくため、運用のデザインをしておくとうい。 ●病院での扱いはそれぞれの医療機関での判断になるが、安房医師会で共通認識を作って

いただけるよう、担当課で説明に伺う。

- 「届出」や「申請」は行政用語なので、市民からすると難しい。周知の際はやさしい言葉を使ってほしい。
- 「届出制度」という名前が重たい。
- 制度の導入は市民の考え方がプラスに進む、いいきっかけになると思う。
- この制度ができることで、自分達は当たり前に行っていることが「できない人」がいるということに気づいてもらいたい。
- 性的マイノリティに限らず、日常生活に支障がある方たちがいることを知ってもらうきっかけになるといい。
- これからの人たちのための制度のようだが、高齢者にもずっと言えずにきた人たちもいると思う。そういう人たちも置き去りにならないようにしてほしい。

(市民アンケートを行うとしたら)

- アンケート周知の際、広報紙には「アンケートをやります」だけでなく、「こういう取組をしています」ということを載せるとよい。
- 制度を導入するためのアンケートではなく、社会の状況や制度のことを伝えるためのアンケートにしたらい。
- 恐らく回答する人は少ないと思うが、本当にアンケートは必要か？
- アンケートで制度の説明となるとかなりの労力が必要になると思う。費用対効果検討。
- 周りに例が無く、どう捉えたらよいかわからない。少数の方を救うための制度であり、それを導入するのは良いことだと思う。ただ、わからない人がアンケートに答えても回答の質が落ちるのではないか。
- 自分は当事者から話を聞いたことがなく、実態がわからない。恐らく多くの市民がそうだと思う。だから突然アンケートと言われても「まあ、いいんじゃない。」で終わってしまうのではないか。
- 10代の学生に考えてほしい。小学校高学年くらいから一緒に考えていけるといい。
- 学校ではずっと人権・差別教育に取り組んできたので、見た目に対する心の有り様は昔と随分変わった。しかし、それによって制度的に不利を受けてきた歴史的な背景などは教えられていない。このまま「みんな違ってみんないい」「世界に一つだけの花」で終わらないようにしなければいけない。
- 困っている人に「館山市ではこれだけ動いてるよ」と一日でも早く伝えてあげたい。

5. その他

次期「千葉県男女共同参画地域推進員」を引き受けていただける方は2月18日までに連絡をいただけるよう会長から依頼。

6. 閉会